

かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第29号（令和2年5月）

- あゆむ「古墳が、上山にもあったの？」
 ミドリ「あら、知らなかったの！」
 あゆむ「大きな古墳が世界遺産になったというのをテレビなどで見て、古墳というものを知ったけど、あのような大きな古墳なんて、本当にあるの？」
 ミドリ「“大山古墳”のことね。確かに大きくて周りにも多くの古墳があってすごいわね。」
 ふみお「そうだね。大山古墳を含む“百舌鳥・古市古墳群”が世界遺産になったということだからね。」
 あゆむ「あのような大きなものが本当にある？」
 ミドリ「土矢倉というところなんだって。さあ、見えてきた。うわあ、すごい、桜満開！」
 ふみお「あれは、“長寿園”という施設があるところだよ。桜と蔵王の雪がきれいだ。」
 あゆむ「ほう、あれが古墳か？」



- 文じい「いや、あの丘の全体が古墳ということではない。古墳はあの丘の上にある。」
 あゆむ「なあんだ、そうなのか。」
 文じい「そこに3つの古墳がある。」
 あゆむ「えっ、3つもあるの？ よし、行こう！」
 文じい「ちょっと待ちなさい。実は、古墳の持ち主はこの施設になっておる。ご挨拶をしてしかもご迷惑にならないようにしなければならん。さらに、今回は・・・。」

つ ち や ぐ ら

土 矢 倉

こ ふ ん ぐ ん

古 墳 群

- ミドリ「今回は、新型コロナウイルスのことも心配ね。だから、無理はしないようにということね。」
 文じい「ふむ。残念じゃが、今回は外の周りから見ただけにしよう。」
 ミドリ「わたし、いつも見ている『かみのやまの文化財』という本を持ってきたわ。」
 ふみお「ぼくは、『村山の歴史』という本だ。」
 文じい「それはよかった。」
 あゆむ「どれどれ。ふーん、なんだかむずかしそうだな。」
 ミドリ「写真とか図から見てみましょう。」
 あゆむ「1号、2号、3号と、やっぱり3つある。」
 ミドリ「形がちがう。1号墳と3号墳は丸いわ。」
 ふみお「円墳というんだね。」
 文じい「前に撮っていた写真も見てみよう。」
 ミドリ「これが1号墳ね。」



- ふみお「高さ2.5m。径、つまり幅は13m。周りに溝が掘られている。」
 あゆむ「穴が見えるぞ、これはなんだ？」

ふみお「箱形の石棺があったらしい。」
 文じい「石でつくった棺で、つまり、亡くなった人をここに置いて吊ったんじゃ。」
 あゆむ「古墳は昔の人の墓というわけか。」
 ミドリ「大山古墳は、“仁徳天皇陵古墳”とも言われるけど、仁徳天皇の墓ではないかというわけね。」
 あゆむ「なるほど。それで、2号墳というのは？」
 文じい「ふむ、これじゃ。」



あゆむ「横に長いな。」
 ミドリ「右側が丸く盛り上がっているわね。」
 ふみお「長さが17m。前が方形で、後ろが円形ということから、前方後円墳ということらしい。」
 あゆむ「あの大山古墳みたいな形か。」
 ミドリ「そうだね。ところで、そばに石碑がたっているわね。」
 文じい「実は、ここの土は良い土だということから、土取りをしてきたらしいが、やがて、災いが起こった。それで、霊を吊うために建立したと言われている。」
 ミドリ「お墓の土だったからなんでしょうね。」
 あゆむ「そんなこともあったのか。それで、最後の3号墳は？」
 文じい「写真もあるが、実は、これは周りからも見ることができる。」
 あゆむ「え、それはどこ？」
 文じい「北西の方から見える。向こうじゃ。」
 ミドリ「農道をさらに進んで、えーと？」
 ふみお「あ、あれじゃないかな。」

文じい「ほほう、よくわかったな。」
 あゆむ「あれか。」
 ミドリ「なるほど、丸いわね。」
 ふみお「高さ2.1m。径15.2mの円墳。」
 ミドリ「ふーん。ここからながめると、この丘は、蔵王の方から流れてきた土などがたまっていたところみたいね。」
 ふみお「解説には、蔵王山の泥流によって形成された舌状台地、つまり、舌のようにのびた台地ということだ。」
 あゆむ「そこに、墓が3つあるということは？」
 ミドリ「これだけの大きなものをつくるには、大勢の人を動かせる大きな力のある人がいたわけね。いつごろのことだったのかしら。」
 あゆむ「何か、ほかにわかるものはないのかな。」
 ふみお「本を見ると、鉄鏃、土師器片、須恵器片、直刀残片、漆塗りの編物片、それに、埴輪や葺石など。」
 あゆむ「なんだか、むずかしいな。」
 ミドリ「埴輪は写真などで見たことあるわ。古墳の周りに置いたようね。くわしいことは、他の本も見てくださいよ。」
 ふみお「うん。埴輪などの特徴などから6世紀中ごろから後半と考えられるということだけど、家に帰ってさらに調べてみよう。」
 文じい「花咲けど、コロナの春は人もなし、か。このような時は、そっと外から眺め、あとは家にある『上山市史』などの本やネットで調べるのもいいじゃろう。どれ、戻るとしようか・・・。」